

## アドラー流「自分から勉強する子」の親の言葉

和田 秀樹 大和書房 2022. 3.

本書は、アドラー心理学の理論をベースにして、著者の経験等を踏まえてまとめてあります。保護者の声かけの影響の大きさははかりしれないものだと思わされる内容です。一部を紹介します。

- ◆子どもを勇気づけようとするときには、**最初に話に耳を傾けよう**。  
その前に信頼を得られるような心の状態を創り出さなければならない。  
子どもが「親は自分の話を最後まで楽しく聞いてくれる」と感じているからこそ、何でも親に話そうという習慣が生まれる
- ◆かなりの確率で親の勉強習慣と子どもの学歴は比例的な関係にある。  
子どもを勉強好きにするには、**まずは親が勉強している姿を見せる**のが最も効果的。
- ◆親として優先すべきは、まず子ども自身に価値があると思わせること。  
これこそが「**勇気づけ**」。
- ◆何か欲しいものがあるとき、両親に対して要望があるときにも**プレゼンテーションさせる**とよい。自分がどうしてほしいのか、その根拠となるものをきちんと説明して説得するようにさせる。その経験を通じて、(中略)説得する力が身に付いてくる。
- ◆いじめられていることを親に相談できない子はたくさんいる。普段から、相談しやすい環境を作っておく必要がある。日頃から「ママとパパはいつでも**あなたの味方**だよ」とメッセージを送っておきましょう。
- ◆子どもに勉強をさせたいのなら、「勉強できることは**カッコいい**」という価値観を持つように、繰り返し伝えていく必要がある。